

紀州生れ、吉字大切に可存旨申儀は、偽にて無之旨申候。又浪人集候儀は、源左衛門・權太夫・主計等追て吉事有之、新家出來候御沙汰有之候間、改行事にて可有之など、申候に付、右吉の字の儀等も存合候。何も申旨に任せ浪人參次第、家來に仕り候旨申候。

一、觀學院儀、師匠堯仙院方に改行居候節、一所に罷在候内、公儀へ由緒有之、御目通へも罷出、御腰物等追付御扶持をも拜領可仕候。其節は相應の合力可仕旨、左候へば人も入候間、浪人一兩人引合くれ候様にと申聞候故信と存じ、すさや喜左衛門知人の浪人本多源左衛門へ右の譯申聞、改行引合の由。

一、常樂院儀、師匠堯仙院方より改行を遣候に付、無據差置候。改行申候は、公儀へ筋目有之者にて、去々年八月三日於吹上御目見仕候節、御連枝の格と獨禮被仰付候。御盃も致頂戴候由、其外色々の儀申聞候故信と存、隨分大切に致介抱候。當三月朔日浪人共へ、夫々役儀申渡候節、常樂院も赤川大膳と改行名付申候。

一、本多源左衛門儀初發家來分に成、其後南部權太夫・矢島

主計等引付家來分にいたし、源左衛門・權太夫兩人にて萬事取計候。此者共傳手にて段々浪人參り、當三月廿九日には改行へ爲致目見、四月朔日夫々に役儀をも改行申渡、種々結構の筋目の様に申慣し、色々尤らしき様子に見せかけ候。謀計の様には不存、今更後悔仕由申候事。以上。西四月廿三日

一、廣南象を貢する事

今茲己酉夏廣南貢馴象、畜象人名潭數、頃綿二人東都に至る。雄象にして長一丈・高五尺餘、四足圍一尺五寸、鼻長四尺許、圍一尺五寸、牙長一尺二三寸、眼三寸形似蓑葉。東都の人作詩詠之。如左。

慣從調習性還馴。長鼻高形出獸倫。交趾獻來爲異物。歷山耕破幾回春。踏青出野諦如鐵。脫白埋沙牙似銀。努目祿山終不拜。誰知守義以仁人。

京師人伊藤長胤

大造孕群品。洪纖各有區。靈椿空傳壽。鯤鵬談亦迂。唯象超獸倫。厖然偉厥軀。土性出南荒。萬里疆域殊。嘗被楚師燧。又遭周公驅。西竺種毫鷲。騎乘如牛驢。既覽三獸渡。兼說象盲摸。往昔應永時。貢與鸚鵡俱。爾來久不聞。想象徒

按圖。昇平餘百年。禮仕逼海隅。異卉來絕域。文錦致勾吳。此物自廣南。底貢遠乘桴。潭數與頃綿。馴養教象奴。葛蕉及古稻。餵飼代秣芻。數尺鬣其鼻。幾圍楹其附。沿路人皆觀。填街又溢衢。異物今日擊。宏覽足破均。

京師人石川正恒

相像幾年徒費思。奇形今日始親看。牙如削玉尤清潔。鼻似垂雲更屈盤。智解人言疑益事。姿兼牛體有堪觀。休陳以齒焚軀說。故帶華纒入縣官。

一日の飼物、象年六歳云

新薬二百斤 さゝ百五十斤 ひめくさ九十斤 いたとかづら五十斤 米六升 くねんぼ五十 だい／＼百 無節饅頭五十 清水一石五斗 酒九升 三升宛三斗用

四月廿八日象を以て禁裏觀覽に備ふ

御製

時しあれば他の國なるけだ物もけふ九重に見るぞ嬉しき

法皇御製

おのが名のきさらぎ彌生夏かけて猶行道も末のはるけき

有栖川

此國の治れる世をけだ物も唐土よりやしたひ來ぬらん

一條殿

手弱女が髪にもよれる引綱もあかず恵になつきてやこし

一、象來貢につき鳩巢書狀

六月八日先生大地兒へ迄御手書、拙者學而篇筆記の事、第十一章あたり迄調置申候。其後は

手痛つよく筆取候事難成、其上物を工夫仕候事痛み惣じて覺え候故、頃日は指止申候。其内そろ／＼慰がてらに仕可申と存候。今少々候間何とぞ成り可申と存候。精氣昔と替り候故、文字を屬し申事難成候。義理は結句精く成候へども、文辭の力弱く無念に存じ候。太極圖說、西銘も、前年草稿のまゝ、貴殿御寫候て御越候冊有之候。近比尾張の家の中より、右の兩解何とぞ爲見候様にと申來候。一兩年の内、清書候はゞ可遣旨申越候。是はあまり手間も入申間敷候。小部の物に候間、命の内に成就爲致置度候。頃日は異國より象參申候。長崎迄參り、其より東海道を通り、此間江戸へ參着申候。御城へは先日上り申候。御三家・上野などへ近日參候由見物の衆夥敷相聞え候。珍禽奇獸不畜于國と申候に、毎日大分の食物に候へば、大成る御費にて候。